

特41

756

通
明
寺

256
233

特41
756



道明寺

善光寺

善光寺の御願文に記すに、

善光寺

ある處に

加藤あるに相摸國田村

可成り善光寺の御願文に記すに、

寺の御願文に記すに、

左の御願文に記すに、

行内山に記すに、

44.17
内交

ちかすかりし世中とくまされ
まゆみの後夜明の山原路より
神行が白雲の海もみえたる西表
うらた日ぐれの霧向より遠きもこ
まや河内なる古原の里ありけり
たきく 東二七 長月かき指の秋を
えく ラ てもわきまの古原の里 原 刻原

ちかすかりし世中とくまされ
まゆみの後夜明の山原路より
神行が白雲の海もみえたる西表
うらた日ぐれの霧向より遠きもこ
まや河内なる古原の里ありけり
たきく 東二七 長月かき指の秋を
えく ラ てもわきまの古原の里 原 刻原

てり。きりく。上。神。は。松。の。た。か。る。み。
作。乃。秋。く。霜。を。ま。り。て。下。草。は。只。
ゆ。の。方。お。ご。ら。あ。ご。ら。く。被。は。ぼ。た。て。
ま。つ。れ。宮。路。久。ま。照。歌。の。う。ら。ま。誓。
ひ。き。酒。の。ち。く。日。盛。盛。宮。入。の。
申。上。の。事。は。か。此。方。の。事。は。て。の。の。
行。の。事。は。く。果。の。善。き。は。の。

兼。乃。海。夢。想。は。の。の。の。の。の。
み。ま。り。て。の。寺。は。入。の。の。申。は。の。
乃。松。の。か。の。の。の。の。の。の。の。
を。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
老。人。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
人。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
は。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

ささるの救珠と。今佛百万及やまな
 信ヨコウミヤカサマノミヤ疑あるまきし夢くもあはれ
 ぬ。あんぼらふがごとくうまひあはれそ
 るか。神のまじりたはらひは。撫くも申
 乃人ひるま申なす。先唯今も修ら
 きら末徳樹とてんを申らる。此方へ
 清も入早んからかたて河供申らる。

日テ身と神のやまもあはれた社に神
 まるふやま。社をいへる成る天神て
 出るあはれあはれたる社かて河も
 かくらの末徳樹とて。河能いあはれ
 乃人早有種也神も仏も同神といかせ
 どま。天神はまの御結縁のうま
 て家ソノカスるうたてけを今

みまゝにぬれ天祥乃ほ陰翳に作値
遇天祥とて其地を救世観音
みくまの海を渡る早かるに是ハ
現りある昔在靈山名徳苑今在
西方名ありて 伊勢系現觀音
三行益同神 早に外神也
けりて 水放乃隔る神

一如ちぬれ寺のみのみちありて
夏ぬ神の宮もそなたも有がた
有がた 冥神かも佛現もその和
光乃多ふまゝに振むそなたの
はた 支那のむら神乃り
五その時行よる迄神も得也
終る響く西都よりる

萬の人の言を聞きしに、
 心もなりしを、
 神を信する戸なりと、
 生を信する戸なりと、
 天満陽尊を、
 物もあらずと、
 皆成公のこのこ

上地
 心もなりしを、
 神を信する戸なりと、
 生を信する戸なりと、
 天満陽尊を、
 物もあらずと、
 皆成公のこのこ

又たわんざとておぼろげなる
まはるるもたゞの徳をばか
なり梅き辞まのりまの梅
かへりかへりかへりかへり
げわあまの玉垣のやけり
中にく自ち支らぬ人の徳
勢指のまゝにまゝにまゝに

ふまゝのまゝにまゝにまゝに
ねらうやあまのりまの梅
の曲くまのりまの梅
願してまのりまの梅
魔縁をまのりまの梅
まはるるもたゞの徳をばか
樂も反命をまのりまの梅

256
233

複製不許



發行兼
印刷者

檜

常之

(特電話二重
振替貯金大段)



訂正者 觀世清



明治廿二年六月廿五日從
出版御届濟
同 廿四年一月廿八日迄
同 四十三年四月廿五日從
再版
同 四十四年十月廿五日迄
同 四十四年二月十五日別製本御届

乃此之獲人は多に... 本標樹...
 幸多し... 味乃...
 彼... 乃...
 乃... 煩悩...
 八煩悩... 道明...
 神楽... 乃...

